

名古屋大学 農学国際教育研究センター ニュース

令和1年6月1日発行 通巻35号(年2回発行)

発行/名古屋大学 農学国際教育研究センター

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

<https://icrea.agr.nagoya-u.ac.jp/>

e-mail:icrea@agr.nagoya-u.ac.jp

次世代の農資源利用研究 プロジェクトキックオフ シンポジウムを開催

科研費特設分野[次世代の農資源利用]「インターディシプリナリーアプローチによるサゴヤシの商品作物化」、「接木技術の高度化による多様性回復とモノカルチャーの共実現」のキックオフに当たり、標記シンポジウムを生命農学研究科、高等研究院、アジア共創教育研究機構と農国センターの主催（共同企画）、環境学研究科との共催により、2018年12月5日(水)に開催しました。国内8大学11人の研究者とインドネシア・北ルー県知事を話題提供者、コメンテーターとして迎え、関連した継続中の科研費海外学術研究、新学術領域の成果を紹介するとともに、農資源利用の多様性の確保、食料安全保障の強化等を通じて持続的な社会を創出するための展開について議論しました。

(江原 宏)



インドネシア会場と繋いでのディスカッションの様子

ブルンジでイネ育種に関する 国際ワークショップをIRRIと共催

2018年12月3～5日、ブルンジの首都ブジュンブラにある国際稲研究所（IRRI）東南部アフリカ支所ブルンジ拠点において、「東南部アフリカ稲育種ネットワークのための国際ワークショップ」をIRRIと共催しました。2018年度に開始した日本学術振興会（JSPS）研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）「アフリカ稲作研究イノベーションのための研究拠点と国際協働ネットワークの構築」の一環として実施した本ワークショップには、名古屋大学、IRRI、国際トウモロコシ・コムギ改良センター（CIMMYT）およびアフリカ稲センター（Africa Rice Center）に加え、ケニア、タンザニア、ウガンダ、マラウイ、ザンジバル、モザンビーク、ザンビア、コンゴ民主共和国、エチオピア、ソマリア、およびブルンジのイネ研究者が参加し、合計15ヶ国、37名を数える国際色豊かなイベントとなりました。ワークショップ初日には、農学国際教育研究センターの榎原准教授および生命農学研究科の土井准教授が講演し、名古屋大学が開発した病害、冷害、塩害などに抵抗性を持つイネ系統をアフリカ各国の研究機関に配布し、それらの生育や収量を評価する計画について協議を行いました。2日目には、アフリカ各国の研究者から、イネ育種に関する現状、課題、展望などについて報告があり、研究協力、技術指導、人材育成の必要性が再認識されました。3日目には、アフリカ各国から参加した研究者に対してイネ育種技術およびイネ育成系統の圃場における評価方法に関する実地研修を行いました。本ワークショップを開催したことにより、東南部アフリカのイネ研究のためのネットワークが強化され、活動の方向性についても相互理解が進みました。今後、本ネットワークを活用し、名古屋大学が開発したイネ育成系統を各国に配布し、栽培試験および系統選抜を進めるプロジェクトを推進していく予定です。

(榎原大悟)



15ヶ国から集まった37名のワークショップ参加者